

## 情熱の人、柳井先生

## 高根 芳雄 (ビクトリア大学)

私が柳井先生と「運命の出会い」をしたのは1967年でちょうど今から47年前になります。もう少しで「金婚式」というところで残念ながら永遠の別れが来てしまいました。私が柳井先生と最初にお会いした時のいきさつやその後受けた数々の学恩につきましても先生が2006年に大学入試センターを退官なされた時の記念文集に書かせていただきましたので ([takane.brinkster.net/Yoshio/](http://takane.brinkster.net/Yoshio/)) ここでは先生とのその後の交流について書かせていただきます。

IMPS-2007 が東京で開かれた時、私は keynote speaker の1人として招待され、その時柳井先生は講演に先立って私を紹介する労を取って下さいました。その中で最も印象的だったのは私の論文がそれまでの数年間で飛躍的に増えているのを先生が2次の回帰分析を使って示されたことでした。私自身は余り意識していませんでしたが、言われてみると確かに思い当たります。私は家庭の事情で1996年から2002年にかけて殆んど研究をしている暇がありませんでした。その反動で論文が急に増えたものと思われまます。私は何よりもこのような場面で統計手法の効用を実践的に示された柳井先生の統計学にける熱い思いに感激しました。

この大会の直後私は柳井先生から前立腺癌を患っていらっしゃることを知らされました。この時私は「射影行列、一般化逆行列、特異値分解」の英訳を約束しました。実は私の講演の冒頭で私の愛読書としてこの本を紹介したいいきさつがあったからです。私は柳井先生の話聞いてすぐにも完成させなければいけないという思いを強くしました。柳井先生は出版に当たり私が第1著者になっても良いとまでおっしゃって下さいましたが、私は鄭重に断りました。おそらく先生にとってはこの本を出来るだけ多くの人に読んでもらうことが第一で authorship のことはどうでもよいと思われたのでしょう。私は逆に柳井、竹内著、高根訳で良いという提案をしましたが、結局私が内容

に若干手を加えることで第3著者として入ることで決着しました。この本は2011年にSpringerから出版されました。

柳井先生に最後にお会いしたのは去年の9月26日のことでした。私はそれより10日ほど前に日本に着いたのですが、札幌と大阪で用事を済ませようやく東京に戻ったところでした。実は札幌で柳井先生に会えるとはばかり思っていたのです。私の一時帰国は札幌で開催された日本心理学会で賞を受け取るため、その賞に私を推薦して下さいましたのが柳井先生だったからです。ところが先生は札幌にはいらっしやられませんでした。授賞式の翌日繁樹先生から柳井先生は半年ほど前に自宅の階段から足を踏み外され頭を打ち私が帰国する少し前まで入院なされていたと聞きました。私は東京に戻った翌々日柳井先生の自宅に伺いました。

先生は2度の手術と半年に渡る入院の直後で若干やつれたようにも見受けられましたが頭の方は明晰で私はついつい2時間も話し込んでしまいました。柳井先生は翌週から車いすに乗って授業を再開するとおっしゃるほど意気軒昂のご様子でした。私が日本心理学会と阪大の講演で使ったスライドを見せるとそれを熱心にご覧になり、最後にそれを置いて行くようおっしゃられました。私はそれを聞いてすっかり安心し先生がその後順調に回復されるものと思ひ込んでいました。それ以来私は先生の訃報が届くまで前立腺癌のことはすっかり忘れてしまっていたのです。

柳井先生は何よりも情熱の人でした。何をなさるにも先生は自分がなさっていることに夢中で取り組んでいらっしやるのがひしひしと伝わってきました。これはmentorとして一番重要な資質ではないかと思われまます。柳井先生はそれが天性というか自然に備わっている人でした。

高根 芳雄 マッギル大学  
助教授、准教授、教授を経て  
2012年より現職。マッギル大学  
名誉教授。